NEWSLETTER

日英教育学会
JAPAN-UK　EDUCATION　FORUM

Contents

第31回(2022)年次大会について 2

Essays 5

伊東（青木）敬子　会員

「MANGA BAZAAR と教育メディアとしてのマンガ」

樋口真須人　会員

「英国のコンピュータ教育と女性エンジニア養成」

宮腰英一先生を偲んで 9

谷川至孝　会員

白幡真紀　会員

運営委員会報告 13

紀要編集委員会報告 13

事務局からのお知らせ 14

編集後記 15

第31回（2022年度）年次大会について

日英教育学会第31回大会準備委員会　髙妻紳二郎（福岡大学）

第28回大会以来、3年ぶりに学会大会の開催をお引き受けした福岡大学の髙妻です。過去２年間の大会はオンライン実施を余儀なくされましたが、次回31回大会は可能な限り、状況が許す限り、対面開催にこだわって進めてまいります。ご承知のようにイギリスでは、現在、日本からのほとんどの旅行者が新型コロナウイルスのワクチン完全接種証明なしでも入国することができます。他の国々と異なり文字通りwithコロナの最先端を走っている国であり、入国に際しても新型コロナウイルス検査や隔離、必要書類もありません。今後、イギリスからの帰国時の諸手続きがなくなり、かつてのようにいつでも渡英を計画できるようになる日を心待ちにしているところです。

ただし、これまで日本ではコロナ感染の波が幾重にも押し寄せるたびに強い防御策が講じられ、私たちの研究に支障がでていることは言うまでもありません。本学会に限らず、多くの学会大会でオンライン開催が主流になりましたが、対面での研究報告の緊張感、情報のシェアはもとより、地理的移動による心身のリフレッシュ、またはメリハリの効果が高かったことも実感しています。この夏はぜひ福岡・博多の地においでいただき、忘れかけている対面コミュニケーションの良さを感じていただければと思います。

このように何らかの行動制限が発せられない限り対面開催として計画しておりますが、今後の状況をみながら可能な限りハイフレックス導入あるいは全面オンライン開催も念頭に準備する予定です。最終的な判断は大会１か月前にさせていただきます。

①開催予定日:2022年8月29日(月)、30日(火)

場所：大会会場：福岡大学　〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1
福岡大学附属図書館多目的ホール
運営委員会・シンポ打ち合わせ会場＝福岡大学附属図書館6階ゼミ室
【宿泊】 各自でご手配をお願いいたします。
【昼食】 両日ともに学食が開いておりますので、適宜ご利用ください。

②会費

(1)　大会参加費　3,000円（一般会員）、1000円（学生会員）
＊オンライン参加も同様。事前に振り込んでいただく手続きをお知らせします。
(2)　懇親会費　3,000円（開催の有無を含めて大会プログラムでお知らせします。）
＊いずれも大会プログラムでお知らせします。

③ 2日間のスケジュール（案）

第1日：8月29日（月）

11:00～12:30 運営委員会図書館6階　大学院ゼミ室
12:30～ 受付　図書館1階多目的ホール前
12:30～ シンポジウム打ち合わせ
図書館6階　大学院ゼミ室
14:00～17:20 シンポジウム　図書館1階多目的ホール
※非会員の方もご参加いただけます（参加費無料）
17:30～19:00 懇親会開催の場合
ひだまり（図書館１階学食）

第２日：8月30日（火）

9:00～ 受付　上記
9:30～11:20　研究発表　図書館1階多目的ホール
11:30～12:30　総会　〃

【シンポジウム】　８月２９日(月)　14：00〜17：20

英国教員養成の質保証：複雑化する養成ルートでいかに専門性を保証し得るのか

周知のように英国の教員養成はschool-basedに移行する様相を呈しており、人口増の見通しにありながら深刻な教員不足がみられるなど、伝統的な教職プロフェッショナルを育成する軌道とは離れた動向が看取される。近時の政策として普及しているアカデミーには免許資格を保有せずとも教員として登用する例もみられるといい、英国の教員養成、ひいては教師教育全体を今一度見直す必要がある時期を迎えたとも言えよう。くしくもコロナ禍における度重なるロックダウンの影響も甚大であって、授業で活用する通信回線状況格差はもとより学校から家庭への連絡手段の途絶や喫緊の生活保障の必要を含め、家庭や子どもが置かれた教育環境の格差も浮き彫りになった。児童生徒のみならず、教員が置かれた生活状況、勤務状況についてもvulnerableな観点から大きな課題として把握されている。そしてなおも英国における感染状況の急激な増縮減が看取され、学校も大きな影響を受け続けている。2020年のロックダウン初期にみられたYouTube動画で代替可とするような局面からは脱出しつつあるとはいえ、教育内容にとどまらず今後は教師の専門性も再び問われることが予想し得る。

過去の日英教育学会において「英国教師教育・教員養成」をシンポジウムの課題として取り上げたのは、第5回大会（1996年8月、立命館大学）「教師教育の動向と課題」（R.オルドリッチ教授）、第7回大会（1998年9月、早稲田大学）「教師教育の未来」（P.ギルロイ教授）、そして第21回大会（2012年9月、早稲田大学）「日英の教員養成の比較研究」の３回である。直近の2012年の大会では日本では自民党から民主党への政権交代を経た時期での企画であり、日英の教員養成の実態を素材として教員養成期間の延長や研修制度の在り方が活発に議論されている（本学会紀要第17号所収）。以来、10年が過ぎた今日、日本では教職の専門性の議論を超えて教員免許更新制度の「発展的解消」を主な目的とした教育職員免許法が改正され、失効した免許も復活することとなった。さらに「働き方改革」の号令の下で教員の仕事の見直しが急がれ、一方で採用倍率の著しい低下に何とか歯止めをかけようとする微視的な手当てや、特に小学校において全く足りていない教員不足の弥縫策に追われている。

このように重要案件は目白押しではあるが、日本における教員養成改革の多様な政策アイディアにかかる議論を参照しつつも、本シンポジウムでは、英国の教員養成ルートと教員の資質・能力の向上策、養成システムに詳しい会員お二人のご報告をもとに、英国における教員養成に焦点化した議論を展開したい。そして英国での「教員養成の質保証」の特質を描出するとともに、どのように専門性を保証しようとしているのか、現状及び今後の展開に係る情報共有の場としたい。

14：00開始
14：10〜15：20
盛藤陽子（東京大学大学院・院生）
教員養成の場の多様性と複雑性（仮）
15：30〜16：40
高野和子（明治大学）
教員養成の軌跡と見通し―日英比較の視点―（仮）
16：50〜17：20　共同討議

【シンポジストの紹介】

盛藤陽子会員

【略歴】

令和4年3月東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学、4月から東京大学大学院教育学研究科大学院研究生として在籍及び公立高等学校教諭として勤務。

【研究関心】

イギリスの学校主導型教員養成の一つであるSCITT(School-centred Initial Teacher Training)のカリキュラムや教育内容とそれらを通した実習生や教師の学びの様相を質的に分析すること。

【主要な研究業績】

・「イングランドのSCITT(School-centred Initial Teacher Training)における「理論」と「実践」の統合に関する一考察―Gateshead 3-7 SCITTカリキュラムの事例分析から―」『日本教師教育学会年報』第22号、pp. 89-100、2013年。

・「学校における多文化教育に資するイギリスの学校主導型教員養成カリキュラム―SCITT（School-centred Initial Teacher Training）の比較ケース分析を通して―」『比較教育学研究』第59号、pp. 69-91、2019年、等。

高野和子会員

【略歴】

京都大学大学院教育学研究科博士課程退学（研究指導認定）後、関西、首都圏（1989年度から）の高等教育機関での専業非常勤講師を経て1996年度から明治大学専任教員。2007年度にロンドン大学教育学院・客員研究員。

【研究関心】

教育学部・学科をもたない大規模私立大学のなかで教職課程の運営と教育に携わりながら、日本とイギリスの“大学と教員養成”をめぐる問題に関心を寄せてきた。

【主要な研究業績】

・“The Significance and Limitations of Area Training Organizations - a Japanese Perspective", History of Education Researcher,Vol.84, 2009.

・「イギリスにおける教員養成の「質保証」システムー戦後改革からの40年間」『明治大学人文科学研究所紀要』第77冊,2015年

・「『教職課程コアカリキュラム』と『参照基準（教育学分野）』ー教員養成の質保証にかかわる二つの文書―」『明治大学教職課程年報』第43号,2021年、等。

Essays

MANGA BAZAAR と教育メディアとしてのマンガ

伊東（青木）敬子（明治大学・兼任）

英国をはじめ、西欧では、日本のマンガが大人気です。娯楽のマンガと思われがちですが、日本のマンガは教育においても大変注目されているメディアです。ここに焦点を当て、現代英国におけるマンガ事情を報告します。

会員の皆様は、英国のウォーターストーンズ（Waterstone's）という書店をご存知のことと思います。ウォーリントン（Warrington）支店では、この春大きなマンガイベント（MANGA BAZAAR）が行われ、大勢の若者たちがこのイベントに参加しました。その様子はソーシャルメディアのインスタグラム上でご覧いただけますが、今回は写真にてご紹介します。掲載した写真はウォーリントン支店のご好意によって、お送りいただいたものですが、その盛況さをご覧いただけるかと思います。

このイベントはSHONEN MANGA NIGHTというタイトルで、2022年、1月29日の夕方6:30から9:00まで行われました。日本でも規模に関わらず、マンガやそのコスプレのイベントは行われていますが、それと同様に参加者は、コスプレをして、パフォーマンスや、ゲームなどに参加しています。日本の少年漫画は、『ワンピース』、『鬼滅の刃』、『NARUTO』、そして『呪術廻戦』など、いずれも日本だけでなく、世界中で大人気のものばかりです。MANGA BAZAARは有料のイベントで、入場料は前売りで５ポンド、当日は７ポンドでしたが、開催前に売り切れでした。ウォーターストーンズ本屋内にあるマンガコーナー（Manga Section）は常に人気で、少年漫画だけでなく、『ポケモン』や、もう連載の終わった『シャーマンキング』など再出版クラシックも売られています。イベント当日は全ての漫画が10%引きでしたので、さらに盛況となりました。

参照文献・サイト
https://www.mangashakespeare.com （2022年5月20日 最終接続）
Nascar, Deep (2018) Shakespeare and Manga: A Study of Transcultural and Transmedial Adaptation of Shakespearean Drama, IMPACT : International Journal of Research in Humanities, Arts and Literature, 143-156.
Instagram: Waterstoneswarrington

実は英国の本屋におけるマンガは、娯楽と教材です。まず、マンガは日本を発祥とした視覚的教育メディアです。マンガの教育利用は文学教育、特にシェイクスピア作品教育において重要です。この理由から、2005年『マンガシェイクスピア（Manga Shakespeare）』というシリーズが出版されました。シェイクスピア作品をテキストで学習するとき、視覚的な補助があることで、場面学習の教授に役立っていることを述べられています。実はこのシリーズの編集には、教育効果を上げるため、研究者、教員などが携わっているのです。

文学研究において、マンガが学習メディアと認められたことで、シェイクスピア作品研究の新たな方向性が生まれました。この『マンガシェイクスピア（Manga Shakespeare）』というシリーズによってこれまでのハイカルチャー（英国文化の最高峰作品）としてのシェイクスピア作品が、マンガというポップカルチャーによって描かれたため、二面的な存在として考察されています。日本発祥のマンガは自国だけでなく、他国文化、教育の歴史を変えつつあります。

英国のコンピュータ教育と女性エンジニア養成

樋口真須人　（国立大阪教育大学非常勤講師）

1．はじめに

我が国の理工系分野における女性研究者や技術者の割合は増加傾向にあるものの、諸外国と比較すると、低い水準にとどまっている。一方、英国における女性エンジニアの割合は９％（2016年）で、欧州諸国で最も低いレベルである。日英は、女性エンジニアの養成という課題を共有している。

デジタル技術産業は、近年、急速に成長してきており、雇用者は益々コンピュータに関連したスキルや知識を重視すると言われている。そのため、より多くの女子生徒がコンピュータ科学に関心を持ち、将来のキャリアとすることが期待されている。

2．教科「コンピューティング」にみられる男女差

英国では、2014年から、ITリテラシーや情報活用能力を重視する教科「ICT」に代わり、アルゴリズムやコンピュータの仕組みへの理解を重視する教科「コンピューティング」が導入された。この動きは、諸外国に大きな影響を与え、我が国においても、義務教育段階にプログラミング教育が導入されるきっかけを与えた。

教科「コンピューティング」は、「コンピュータ科学」、「デジタルリテラシー」、「IT」の3分野から構成されており、プログラミング学習は、「コンピュータ科学」を理解するための実践的な学習であるとされている。初等教育(5~11歳)では、一般的に週一時間程度、学級担任が指導している。中等教育ては、専任の教員がKS3(11~14歳)で週1時間程度、KS4(14~16歳)で週2時間程度指導している。[1]

義務教育が終了する16歳（第11学年）のときに受験するGCSE（中等教育修了一般資格）試験（2018年実施）において、数学、物理、化学、生物の受験者については男女差が見られなかったのに対して、コンピュータ科学の女性受験者の割合は20%にとどまっていた。[2]

大学進学を希望する生徒は、義務教育終了後、2年間、Aレベル試験の資格の取得をめざして学ぶが、Aレベルでのコンピュータ科学の女性受験者の割合は12%とさらに少ない。[2]

領域	配点	試験時間
1．コンピュータシステム ・CPU・メモリー・ストーレッジ ・データーリプリゼンテーション ・有線・無線ネットワーク・ネットワーク技術、 ・システムの安全・システムソフトウェア ・モラル、法律、文化、環境への配慮	80点	1時間30分
2．コンピュータ思考、アルゴリズム、プログラミング ・プログラムの作成 ・アルゴリズム・プログラム技術 ・コンピュータロジック、トランスレーター	80点	1時間30分

GCSEコンピュータ科学試験の概要（2022年度OCR実施より作成）[3]

3．STEMキャリアとジェンダー意識

英国は、生徒のSTEMキャリアへの意欲について研究を重ねている。英国議会（House of Commons）の科学技術委員会の報告書（2014年）によると、STEM 科目への関心は、社会的に形成され、生徒、保護者、教員の考え方に影響を与える要因は、次のとおりであるとされている。

a) ステレオタイプ。70%の人々は科学者を男性と結びつける。

b) STEM キャリアについての知識の欠如と女性のロールモデルの不在。

c) 特に、物理科学に関連するキャリアは男性的なものであるとする強い認識がある。

d) 実際の能力とは関係がなく、女子生徒は、自分の能力に自信をもっていない。

e) 性差別主義（sexism）。女子生徒が STEM を進路として選択することへの期待や励ましが、 男子生徒よりも少ない。[4]

我が国においても、これらと同様な要因が、女性のSTEMキャリアへの進出を阻んでいると考えられる。

4．サイバーファースト ガールズ コンペティション（CyberFirst Girls Competition）

英国では、女性が科学や工学分野のキャリアに進むことを奨励するために、民間非営利団体が、STEM大使プログラム、ビッグバンフェア等において様々な取り組みを行っている。[5]

2016 年に政府通信本部（GCHQ）傘下に設立された国家サイバーセキュリティ・センター（NCSC: National Cyber Security Centre）は、11～19歳を対象として、コンピューター科学、特にサイバーセキュリティについて関心を喚起し、将来の担い手として育てることを目標として、CyberFirstを立ち上げた。CyberFirstは、「短期的な目標」（雇用）と「長期的な目標」（才能の発掘・関心の育成）を融合させたプログラムで構成されており、奨学金給付（大学）、技能修習生制度（Degree Apprenticeship）、年齢別の講習会（サマーコース）、奨学金給付等を実施している。

全世界で、サイバーセキュリティ分野において働く女性の割合は僅か11%である。NCSCは、より多くの女子生徒がGCSEコンピューティングを学び、サイバーセキュリティの職業についてほしいと考え、8学年（12~13歳）の女子生徒を対象としたサイバーファースト ガールズ コンペティションを開始した。2018年には4,500人、2019年と2020年には12,000人が参加して、予想以上に好評を博している。出題内容は、コンピューター科学のカリキュラムに準拠しており、暗号の解読等で競われる。参加した女子生徒の98%は、今後、サイバーセキュリティについて学びたいと回答している。[6]

＜主な参考文献＞

1「諸外国におけるプログラミング教育に関する調査研究」報告書（2015）、pp19-36

2　National Statistics　A level and other 16 to 18 results: 2017 to 2018 (revised)

3　OCR :GCSE Computer Science Specification（For first assessment in 2022）pp5

4　Women in scientific careers（2014）House of Commons Science and Technology Committee pp20

5「理工系分野における女性活躍の推進を目的とした関係国の社会制度・人材育成等に関する比較・分析調査報告書」（2016）pp85-89

6　National Cyber Security Center　Annual Review 2019 pp68-73

CyberFirst Girls Competition Grand Final 2021
(NCSC_HMG YouTubeより)

宮腰英一先生を偲んで

谷川至孝（京都女子大学）

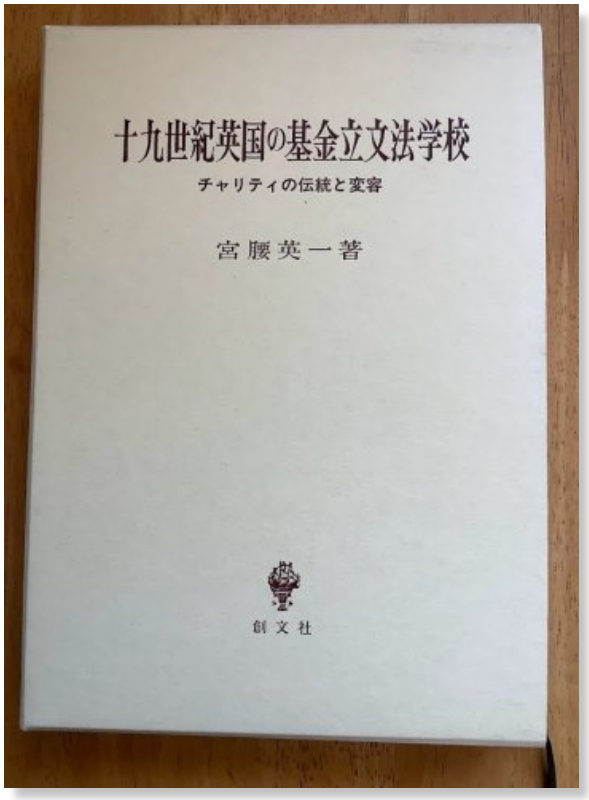
「これは読んでおかなければ」と思いつつ、書架に入ったままの書籍が何冊かあると思います。私であれば、例えばロールズの『正義論』。宮腰先生の『19世紀英国の基金立文法学校：チャリティの伝統と変容』（創文社、2000）もこうした図書の中の一冊でした。

事務局から宮腰先生への追悼文を依頼されたとき、二つ返事でお引き受けしました。宮腰先生には一方ならぬ学恩があるからです。私は東北大学から博士号をいただいています。大げさではなくもう藁おもすがる思いで、宮腰先生にお願いしました。１年にも渡ってご指導いただき、その間４度は書き直していますので、その回数だけ読んでいただいたことになります。心より感謝しています。

加えて、宮腰先生には2009年度より６年もの間、科研に加えていただき、英国調査もさせていただきました。それが博士論文にもつながりました。ともに研究をさせていただき、私の研究を一番周知していただいていたのは宮腰先生でした。

さて、追悼文の依頼を受け、このような学恩にどう報いようかと考えていた時、先ほどの図書に思いあたりました。この機にこのご著書をしっかり読んでみようと。そして、読み終えた後、大田直子（1992）『イギリス教育行政制度成立史：パートナーシップ原理の誕生』（東京大学出版会）もあらためて読み通すことにしました。本学会そして英国教育研究の発展に大きく寄与されたこのお二方の博士論文が、19世紀から20世紀冒頭にかけての英国教育を共に研究対象としておられることに、少なからず興味を抱いたからです。

先に出版された大田の著書は、研究課題とする「パートナーシップ原理」を論じるにあたって、英国



の地方教育行政機関の成り立ちを詳細に検討しています。私たちがLEAと呼び習わしてきた地方教育行政機関は、1870年基礎教育法Elementary Education Act of 1870で設置された学務委員会School Boardをその前身としています。この学務委員会は、直接公選制で、基礎教育の普及に貢献しました。この学務委員会に代わって1902年教育法によって設置されたのがLEAです。ご周知のとおり、LEAは公選制の地方議会議員によって組織され、民主性という観点からはむしろ後退でした。なぜ、どのように、その組織改編が行われたのか、大田はそれを詳細に論じています。

宮腰の著書は次のB.サイモンの記述で始まります。英国は二つの教育制度＝富裕で特権を持つ人々のための制度と、他の残りの人々のための制度、を持つ世界で唯一の先進工業国である。

この記述を受け宮腰は、「何故こうしたイギリス独自の二元的システムが、教育制度において作り上げられたのか」（宮腰４頁）を基本的な課題としています。そしてそれを解明するのに基金立文法学校(endowed grammar school)に焦点をあて、19世紀の国家による中等教育組織化過程（国家関与と教育統制）を論じています。

基金立学校は16－7世紀の絶対王政期に大商人層を中心とした人々の寄贈により創設された学校、つまりチャリティにより基金設定された学校で、ラグビー校など有名パブリックスクールも含まれています。また、チャリティは「私人のボランタリな意思を社会の公益の実現に向けて開いていく篤志行為の受け皿」（宮腰vii頁）と説明され、従って、パブリックスクールの「パブリック」の意味は、元来この非営利性、公共性、公益性を意味し（宮腰302頁）、基金立学校の自律性はこのチャリティの公益性を一つの根拠としていると理解されます。

さて、基金立学校はラテン語やギリシャ語など古典語の文法の教授をカリキュラムの中心に据えてきました。しかし、18世紀後半の産業革命期に至り、新興ブルジョアジーが台頭し、彼らは、より科学的で実学的な教育内容の教授を求めました。ところが、国教会や教員等の既得権を保証する基金立学校の設立定款は、そうした改革を阻んでいました。そして19世紀、基金立学校は生徒数も減り衰退する、あるいは授業料の無償制を廃止し、結果的に貧民を排除する（＝公共性を阻害する）こととなっていきます。このような時代状況が19世紀基金立学校への国家関与や教育統制の問題を惹起したわけです。

結論的には、19世紀の国家による中等教育組織化過程を経て、基金立学校は、上流階級から中産階級中層部のための基金立学校（高額な授業料徴収）と公費補助を受けた基金立学校とに分化し、前者が今日の「独立セクター」を後者は公立中学校とともに「公的セクター」を形成し、二元体制を招来すると説明されます（宮腰301頁）。

正直、この二冊を読むには結構骨が折れました。なぜならば、第一にこの二冊を理解するためには、当時の社会・政治・経済的な予備知識、例えば、新興ブルジャジーの台頭と労働者階級の誕生、選挙法改正や工場法、それらと教育との関係、等を理解しておく必要があるからです。第二に、中産階級の教育要求と労働者階級のそれ、英国教会と非国教会、私立学校と学務委員会立学校、保守党と自由党、その他の政治団体（労働組合やフェビアン協会等）、等が織りなす力学模様を、二冊は詳細に論じています。従って、読み手のほうもそれらを頭の中で整理して読まなければいけないからです。

ニューズレターをお読みの方々は、このお二方の多くの研究論文をお読みになっていると思います。しかし、それらのほとんどはサッチャー以降の研究なのではないでしょうか。お二方の近現代のご研究の基盤には以上のような歴史研究＝豊富な一次資料、知識とそれらをつなげる論理構成力に基づく研究、があります。そして宮腰先生はこの研究を「基礎研究」（宮腰303頁）と記しておられます。今日、このような基礎研究を積んだ英国研究者がどれほどいるでしょうか。

博士号をいただいた後、宮腰先生からいただいたお言葉は、「いち早く本にしてください。そしてもう一冊書いてください」というものでした。５年以上の月日がたちこの二冊目を上梓することができ、宮腰先生にお送りしました。先生の訃報に接したのはその直後でした。

白幡真紀（仙台大学）

宮腰英一先生の訃報が入って来たのは、まだ寒さの残る2月最後の日でした。令和4年2月26日に急逝されたとのことでしたが、そのまさかの報せにしばらく頭が真っ白になりました。まだ気持ちの整理も出来ておりませんが、先生との思い出を振り返ってみたいと思います。

私が初めて先生にお会いしたのは、2005年、放送大学の修士課程から東北大学の博士課程を受験した時でした。先生の研究室を埋め尽くす本の数に圧倒されましたが、こういう研究をしたい、という話をした時にあれこれとすぐに関連図書を引っ張りだしてくださり、丁寧に話をしていただいたことを今でも思い出します。

私は、一度社会人となってから博士課程に進学したため、いつでも大学で研究ができるわけではなく、そうした状況を先生も理解してくださっていたのが大変ありがたかったです。しかしながら、色々と仕事を頼まれる中で、研究以外の仕事を覚えることができ、これが後々非常に役に立ちました。研究室の雰囲気もとても楽しく、これも多くの方から慕われていた先生のお人柄によるものと思います。

特に思い出深いのは、2006年に先生の科研費プロジェクトのため、イギリスの調査に同行させていただいたことです。イギリスで大変楽しそうに昔の留学時の思い出話をされたり、嬉々としてご家族へのお土産を物色されたり、という先生の素のお顔を拝見することができました。長時間のフライトで腰が痛いという私に、空港のラウンジで「四股を踏むといいんだよ！」と言って実際に四股を踏んで見せていただきました。その日以来、私も腰が痛くなりそうな時にはいつも四股を踏んでおり、ヒースローで周囲の注目を浴びながら四股を踏んでおられた先生の姿を思い出します。

ご自身の最終講義でも触れておられましたが、先生にとってはロンドン大学（現・UCL）での思い出は特別なものであったのでしょう。2008年にイギリスで親しくしていらしたDavid Crook先生が東北大学を訪問された際は本当に嬉しそうに色々なお話をされ、仙台の名所旧跡をあちこちご案内されました。

私はその後、妊娠・出産のため休学し、研究室に伺う機会は減りましたが、博士論文の執筆は続けていました。東日本大震災の際は、先生はご無事だったか、壁を埋め尽くしていた書籍がどうなったのか大変心配しました。研究室は予想通り雪崩のように本が崩れてドアも開けることができなかったそうですが、ちょうど研究科長室におられてご無事だったとのことで、先生の強運に感心したものです。

2013年に私がようやく学位を取得し、ご挨拶も兼ねて先生と色々と話をした時のことです。先生が「検査で引っかかって…」と大変不安がっておられ、普段の先生とは少々違った様子で、私も後ろ髪を引かれる思いで帰宅しました。後日また打ち合わせをする、という約束をしていましたが、突然キャンセルされました。その後、すぐに病気治療のためしばらく大学を休まれたと伺いました。あれだけ健康に気を付けてらした先生だけに、大変ショックだったご様子を大学の事務の方から伺いました。事務の方からも「元気印の宮腰先生」と言われていた先生でしたが、病気を経験されてからは学生に対しても「体が一番」と言っておられたようで、無理をせず、治療と体操を前向きに続けてらしたそうです。

2006年10月、科研費の調査でNorthumbria Universityを訪問した際の宮越先生。仙台大学の金井先生と。

2019年3月9日の最終講義の際は、宮腰研究室にゆかりのある方々が集まり、久々に拝見する先生は大変嬉しそうでした。講義は時間をオーバーするほどの熱演ぶりで、あれもこれも話したい先生のお人柄がにじみ出る講義でした。

その後、先生と最後にお会いしたのは、そのわずか2週間後、先生の最後のお弟子さんになる和田（旧姓：飯田）明葉さんのご葬儀でした。最終講義の際に一緒に写真を撮った直後の愛弟子の急な訃報に、参列した私たちもほとんど言葉がありませんでした。先生もかなり気を落とされており、それでも最後までしっかりとお見送りをされたご様子を忘れることができません。そしてそれが私にとって先生の最後のお姿になってしまいました。

宮腰先生はイギリス教育研究の泰斗ととして、多くの方々の尊敬を集めている存在でした。しかし、何よりその親しみのあるお人柄に惹かれた方も多いのではないでしょうか。美味しいものが大好きで、いつも紅茶を嗜まれ、健康にも非常に気を遣っていた先生から教わったことは、枚挙に暇がありません。今年のお正月に先生から頂いた年賀状には、先生のいつもの字で「研究はがんばっていますか」と書かれていました。コロナが落ち着いたら研究の進捗をご報告したいと思っていた矢先に、ご逝去の訃報に接した次第です。十分な恩返しも出来ませんでしたが、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

2019年3月宮腰先生退官記念パーティーにて。

May he rest in peace.

運営委員会報告

2022年5月8日、2022年度第一回運営委員会をオンラインで開催しました。概要は次の通りです。

（1）会員数について
（2）2021年度決算（案）について
（3）2022年度大会について
（4）紀要について
（5）2022年度予算（案）について
（6）次年度大会校について
　　2023年度は専修大学での開催を計画しています。正式に決定次第お知らせいたします。
（7）公開研究会について
（8）ニューズレターNo.59について
（9）教育関連学会連絡協議会の報告
（10）その他
・シニア会員制度について
・日本学術振興会　育志賞受賞候補者の推薦について
・ニューズレターの紙媒体廃止について
・会員名簿作成の進め方について

紀要編集委員会報告

紀要第26号では、本学会創立30周年記念号として、広瀬裕子代表による巻頭言に加えて、かつて本学会の大会に海外ゲストとしてお招きした3名の方々によるメッセージを集録する予定です。また、通常の内容として、昨年の大会テーマ【イギリス版「高大接続改革」を検証する：格差・公正・移行問題に注目して】においてご登壇いただきましたシンポジストの山村滋会員（大学入試センター）、花井渉会員（大学入試センター）、 佐野正彦会員（大阪電気通信大学）による報告と沖清豪会員によるまとめの論考のほか、自由投稿論文、研究会報告、書評、図書紹介等を掲載予定です。例年通り8 月下旬には発行できるように現在作業を進めております。（髙妻紳二郎）

紀要の原稿を募集しています

紀要第 27 号（2023年8月発行予定）の自由投稿論文を募集します。編集委員会では次号の総頁数のおよその見当をつけたく、投稿の意思のある方は 2023年1月末日までに、氏名・所属・論文タイトル（仮のものでかまいません）をメールでお知らせください。なお、投稿の意思表示がなくてもご投稿いただけます。論文の投稿の締め切りは2023年3月末日です。

投稿意思表示および投稿論文の提出先は「日英教育学会紀要編集委員会」kiyou@juef.orgです。投稿規程は学会ホームページより publications の中から、本学会紀要『日英教育研究フォーラム』第 25号「日英教育学会の歩み・他」にてご確認ください。

事務局からのお知らせ

自由研究発表募集

大会の自由研究発表を募集しています！

現在、大会2日目（8/30）の自由研究発表の発表者を募集しています。ご希望の方はご氏名、ご所属、ご発表題目をそえて6月26日（日）までに学会事務局（jimukyoku@juef.org）までご連絡ください。

学会費

2022年度会費をお支払いください。過年度会費未納の方につきましては、併せてお支払いをお願いします。

また、規定に基づき、三カ年会費未納の方は、除籍されます。くれぐれもご注意ください。

※一般会員は8,000円、学生会員は6,000円です。

◆郵便振替　00170　2　780381　　日英教育学会

◆三井住友銀行　武蔵関支店　総合6651815　　日英教育研究フォーラム事務局長　青木研作

会員登録データの確認のお願い

「会員登録データ確認用紙」を同封しております。所属等の情報が古くなっている方もおられると思いますので確認をお願いいたします。ご変更や追加・削除がある場合は、「会員登録データ確認用紙」に記載したリンクから変更内容を入力してください。また、2022年9月以降、学会ホームページに会員専用ページを設け、そこに会員名簿を掲載する予定です。会員名簿には氏名、所属、専門領域・研究テーマを掲載する予定ですが、もし掲載不可のご希望がありましたら、「会員登録データ確認用紙」に記載したリンクに希望入力欄を設けましたので、そこから8月末までにお知らせください。

写真募集

NL編集チームでは、ニューズレターに使用する写真を募集しています。

会員の皆様がイギリスで撮影された写真で、ニューズレターで使用しても良いものがありましたら、学会事務局（jimukyoku@juef.org）までメール添付でお送りください。

お送りいただく際、写真の説明を一言添えていただけますと幸いです。

編集後記

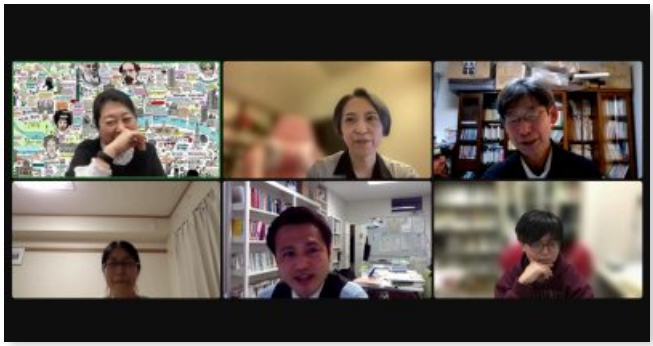
刷新されたNLの第二号をお届けします。私が事務局を担当していた数年前のNLは、とにかく発行するその義務を果たす、という実に事務的で殺風景なものでした。刷新のためのコンセプトはいくつかあります。①紙媒体からデジタル媒体に移行する。（今号は紙とデジタル両方で発行しましたが、総会の議決を経て今後デジタルのみの発行にする予定です）②ビジュアル的に目を引くものにする。③机の前に座っての読みものが学会紀要ならば、NLは寝転がってでも読めるものにする。④それでいて紀要と異なるアプローチから学術的にも貢献し、本学会のもう一つの出版物としての地位を確立する。

手前味噌に論評するならば、二つのエッセイはニューNLの象徴になるかと思います。英国社会の新しい一面をビジュアルに切り取り、しかもそこに学術的な光を、肩ひじ張らずに当てている。ただ単に紙をデジタルに変えたのではなく、デジタルベースならではの良さがそこにあると自負しています。

まだ誕生したばかりでその成長する姿は漠然としています。ネタ切れ、息切れしないかも心配です。若いNL編集委員さんが頑張ってくれています。あと、１・２号発行させていただいたのちに問題点を整理し、新生NLを独り立ちさせたいと思っています。

どうかご協力のほどお願いします。

（運営委員会NL担当　谷川至孝）



NL作成チームミーティングの様子

日英教育学会　（Japan-UK　Education　Forum）

代表　　広瀬　裕子

- NL編集チーム　谷川至孝・清田夏代・鈴木麻里子・伊東（青木）敬子・伊藤駿・青木研作
- 事務局　〒114-0033　東京都北区十条台1-7-13
  東京成徳大学子ども学部・青木研究室内　TEL　03-5948-4464
- 問い合わせ先　jimukyoku@juef.org